

共生地域づくりプロジェクト通信

多賀城市南宮地区

「共生地域プロジェクト通信第6号—特集多賀城のWell-beingのまちづくり—」を発売します。

令和6年度から新たにスタートした宮城県多賀城市が進める「Well-beingをコンセプトにした幸せを感じる共生地域づくり」の取り組みを紹介します。今年度は、多世代が協働して地域の活性化を実現している八幡地区、新田三区、南宮地区の実践に注目し、その様子と特徴を学生が各地区の地域活動・行事の運営に参加しながら、関係者へのインタビューを試みながらまとめました。「楽しい居場所」「役割・活躍の場」「地域・人のつながり」「多世代の協働」「健康」がキーワードとして浮かび上がってきました。

\\ 家族のようなあたたかい繋がりのある南宮地区 //

1 子どもの笑顔が輝く夏まつり

(1) 自治会の組織力

地域を盛り上げる夏まつりとして令和6年8月3日に開催された南宮自治会の夏まつりを紹介します。私たち東北福祉大学の学生は、南宮夏まつりの準備会議と夏まつり当日の状況取材しました。南宮自治会は、櫻井久一会長を中心に多世代が参加していて、今回の夏まつり実行委員長は千葉清夏民生委員・児童委員が務めました。準備会議では、夏まつり当日の仕事分担やスケジュールなどについて確認を行い、自治会のチームワークの良さが発揮されていました。

(2) 大学生と子ども達の交流

夏まつり当日は、地域の子もたちと一緒にしゃぼん玉を楽しみ、子ども会のお母さん達と屋台で販売のお手伝いを行いました。子どもが楽しめるような夏まつりで、小さなお子様連れや小学生などの若者が多く参加していたのが印象的でした。具体的には、カラオケ大会や多賀城太鼓、よさこい踊りなど若者が活躍できる場が用意さ

れ、最後には打ち上げ花火が行われていました。その観客として親世代やご年配の方の参加者も見られ、多世代で楽しむことが出来るあたたかい雰囲気の中夏まつりだと感じました。

(3) キーマンへのインタビュー

～子どもは地域の希望～

また、夏まつり終了後に櫻井自治会長と千葉実行委員長にインタビューをさせていただきました。櫻井自治会長に今年の夏まつりの想いについて伺いすると、「子どもは地域の希望だ」と話されて、子どもたちを大切に思う気持ちと子ども達によって繋がれている地域全体の絆を感じました。千葉実行委員長に地域活動に参加する秘訣を伺うと、「自分が成長できるチャンスだ」と考えどんなことにもパワフルで前向きに取り組んでいる、と話されていました。千葉実行委員長のそのポジティブさと、周りの方々の協力があった成功した夏まつりだと思います。今回の南宮夏まつり準備会議から夏まつり終了後のインタビューを通して、地域活動に参加することでより深くなる地域の方々との人間関係や地域への想いを感じました。



夏まつり準備会議の様子 (2024年7月6日)



子ども達とシャボン玉で遊ぶ様子 (2024年8月3日)



屋台販売の様子 (2024年8月3日)



多賀城太鼓 (2024年8月3日)



櫻井久一さん：南宮自治会 会長 (左側)
千葉清夏さん：夏まつり実行委員会委員長 (右側)



夏まつりの最終打ち合わせで状況確認 (櫻井久一 自治会会長) (2024年8月3日)



お米の重さあてクイズ…記念品贈呈のひとつ (2024年8月3日)



豪華絢爛な花火を全員で鑑賞…いい思い出です。 (2024年8月3日)

2 交流イベントが盛んな南宮いろは会

次に、南宮自治会から支援協力を受け地域を支えている団体をご紹介します。全世代参加の様々なイベントを企画運営している「地域活性化サポーター南宮いろは会」です。全世代参加の「枝豆を育ててみよう」などの交流イベントが開催され、私たちもイベントに参加し、あわせて取材させていただきました。

(1) 「食」を通じた多世代のつながりづくり～枝豆収穫祭～

枝豆収穫祭では、地域の方々と一緒に枝豆を収穫し、婦人会の方々が作ってくれたずんだ餅や枝豆と一緒に食べました。枝豆の収穫祭には、大人だけでなく、地域の子もたちも参加していました。枝豆の収穫作業は地域の方々からコツを教えてもらうとすぐに子どもでも簡単に楽しく行うことが出来、農業を通じた多世代の繋がりを感じる事が出来ました。自分で収穫したものを一緒に食べることで、より関係性が深まっているのではないかと思います。

(2) 参加する人が元気になる

収穫後に「いろは会」設立に向けて、関係者に働きかけた会長の佐藤敏男さん、多賀城市西部地域包括支援センター所長の今野まきこさん、南宮いろは会事務局長の長谷部明さんにインタビューを行いました。佐藤さんは自分自身のために地域づくりに携わっているという言葉が印象的で、地域を大事にしている気持ちと南宮地区に対する誇りを感じました。一方で、集客の難しさが問題だと話されていて、地域づくりに若者を呼び込むことの難しさを改めて感じました。今野さんは南宮いろは会を通じてご年配の方々が元気になったと話されていて、こうした多世代の方々が交流できる場所は大切だと改めて感じました。長谷部さんは地域づくりを運営していくメンバーに若い世代が欲しいと話していて、私たちのような大学生や高校生が地域づくりに関わっていくことの重要性を感じました。枝豆収穫祭とインタビューを通して、地域の温かさを感じる事が出来ました。



枝豆収穫祭参加者の集合写真



枝豆の収穫方法を教える様子



枝豆収穫の様子



収穫後の食事の様子



インタビューに答える櫻井会長
(2024年9月28日)



枝豆収穫祭で、楽しいお話し。
いろは会 佐藤敏男 会長 (2024年9月28日)



インタビューに応じる 西部地域包括支援センター
今野まきこ所長 (2024年9月28日)



大盛況の枝豆収穫祭、おいしくいただきました。
(2024年9月28日)

3 地域の魅力が分かる南宮マップ

最後に、南宮マップについてご紹介します。南宮マップとは、地区の名所やイベントについて写真やイラストで紹介するマップのことで、南宮地区に新しく転入した方への町内会加入を呼びかけるツールでもあります。令和6年度に地区に住んでいるイラストレーター協力のもとリニューアルされ、さらに分かりやすくなりました。この活動の中心として動いているのが、南宮いろは会事務局の長谷部明さんです。

若者世代への情報発信ツール

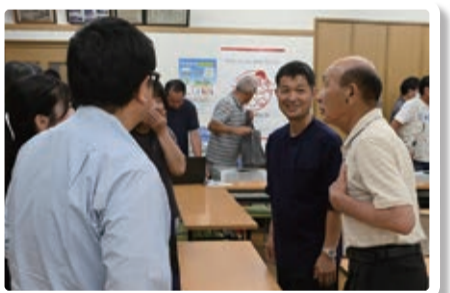
今回私たちは、長谷部さんに南宮マップの目的と南宮マップリ



旧南宮マップ



新南宮マップ



南宮マップリニューアルの仕掛け人 長谷部 明さん(中央)
も夏まつりに参加 (2024年7月6日)



夏まつり当日の舞台裏…おにぎりづくりを大学生へ伝授
(2024年8月3日)



細かい作業、枝豆取りは全員参加
(2024年9月28日)



枝豆取りのコマ 楽しくゆっくりと行きましょう
(2024年9月28日)

森先生よりごあいさつ

南宮自治会では、「南宮いろは会」をたちあげるなど、組織をあげて全世代をつなげる地域づくり活動を展開しており、大規模な夏まつり、南宮いろは会の地域活性化サポーターが取り組む南宮農園の試みに特徴があります。8月に開催された夏まつりの企画・運営では、若い世代も運営に参画することに向け組織体制づくりを含めて進められている点が注目に値します。ともするとベテランの役員を中心に上意下達で決める組織体制の課題が指摘される地域活動の中で、若い世代をトップに据え、老若男女文字通り多くの世代が楽しめる企画の具体化を進めている地域づくりには説得力があります。また、西部地域包括支援センターが南宮いろは会の立ち上げから積極的に関与し、地域活性化サポーターとの連携を通して南宮農園を運営する協働のあり

方と企画性は、多世代の地域づくりには参考になる点が多々あります。「食」に着目し、令和5年度はさつまいも、令和6年度は枝豆づくりを行い、10月の収穫時期には子どもから高齢者までが顔を揃える貴重な機会となっている点も他地域には参考になる取組みです。南宮農園の活動は、その運営によっては、多くの役割を生み出すことにつながるし、高齢者が活躍し健康づくりの機会の創出にもなります。多世代が顔の見える関係になることで、同地区の住民相互の支え合いを形作っていく基盤づくりにもつながる取組みであり、南宮いろは会の運営を通して、今後様々な取組をおこす起点になりうる可能性をもった取組みであると思います。

湯本実優 (ゼミ2年生)

今回の南宮地区での活動を通し、地域のみなさんの南宮地区に対する思いなどを聞くことができ、これから地域づくりについて学んでいくうえで貴重な経験になりました。夏まつりや枝豆収穫祭に参加させていただくなかで、幅広い世代の方々の楽しそうな様子を見て、家族のように深く繋がれている地域全体のあたたかい繋がりを感しました。今回の学びを活かし、若者視点から地域について考えを深めていきたいです。

鈴木日菜子 (ゼミ3年生)

今回の活動を通して、地域の温かさを感じました。あまり地域のイベントに参加したことがなかったため、新鮮でした。慣れない部分もありましたが、楽しく参加させていただきました。イベントを通して、新しい体験をすることができて良かったと思いました。本当にありがとうございました。

編集後記



Instagram



YouTube